

報 告 書

(委員会・会派名) 議会運営委員会
(視 察 日) 令和 6 年 7 月 5 日 (金)
(視察先都市名) 愛知県豊橋市
(視 察 項 目) 委員会オンライン配信、政務活動費の個人支給ほか
(内 容) 報告者：北條 正

委員会のインターネット中継について

- (1) 委員会中継は YouTube を利用して中継している（本会議は CATV 業者へ委託）
- (2) 録画配信に加え、生中継も実施（生中継は YouTube Live）
- (3) 中継の対象委員会
 - ① 予算特別委員会
 - ② 決算特別委員会
 - ③ 一般会計予算特別委員会
 - ④ 常任委員会
 - ⑤ 調査特別委員会
- (4) カメラは比較的安価な 200 万画素降格 Web カメラを使用し、フリーのエンコードソフトを使用する等初期費用を約 90 万円に抑えている。
- (5) 職員でアップロードや簡単な編集作業を行うためランニングコストは約 7 千円／月。（委員会中継できる部屋は 2 部屋）
- (6) 中継カメラは固定式で、委員のみを映している。（市役所職員は映していない）

理由はカメラが固定式で議員が主役。
- (6) 評価されている点
 - ・委員会中継を実施したこと
 - ・音声が比較的クリア 等
- (7) 改善を求められている点
 - ・画質が悪い
 - ・定点カメラのため動きが無く単調
 - ・ネットワーク速度が遅く、動画が不安定
 - ・アクセス数は少ないが要望が多く、議会だよりなどで周知拡大が必要。
- (8) 主な質疑
 - ・職員の負担はどうか
→負担は大きく編集作業に時間を取られる。
 - ・スタート時期は
→平成 29 年 9 月定例会から、YouTube で、委員会や特別委員会の配信をしている。
 - ・再生回数は少ないと思うが
→・再生回数は伸びていないが、強い要望が多く、関心高い方からは評価されている。
 - ・委員会の日程は
→午前と午後に分けて行っていて、議案数が多い委員会は午後に回すので、時間が重なって困ることはない。

委員会のオンライン開催について

- (1) これまで一回のみ。令和 4 年、発熱で欠席し、オンラインでの出席を許可した。
- (2) 採決がない閉会中の委員会審査だったので、本来は、コロナと災害など

緊急事態のための救済措置なので、今後、オンライン委員会のあり方については、検討する必要がある。

政務活動費の個人支給について

- (1) 条例を改正し、実施している。
- (2) 会派に支給する自治体が多い中、個人支給にした理由は、議員個人か執行に責任を持つことで、使途の適正化、透明化を図ることができる。
- (3) 報告については、ホームページで公開している。
- (4) 市民のメリットとして、議員個人の活動が把握しやすいこと。議員のメリットとして、議員の説明責任の所在が明白。また、議員のメリットとして、会派に縛られないため、支出の自由度が大きいこと。会派の異動、解散などに関係なく、支給金額が一律となり、年度途中での精算が発生しないこと。

会議資料のペーパーレス化について

- (1) 令和元年9月議会から。議員はノートパソコンを使っている。全てをなくすことはできず、議員によっては、紙資料と併用し、紙資料は議会の費用で印刷し適用している。
- (2) 会議資料は市民にも議会開会初日に、ネットで議案を公開している。

子ども連れの議会傍聴について

- (1) 議会傍聴規則を一部改正し、児童を受け入れ、乳幼児は託児サービスの活用で傍聴できるように対応した。

その他

- (1) 議会改革は議会運営委員会（10名）のうち8名の理事会で行っている。
- (2) 議会の反問権（理事者）を条例で認めたが、質問の背景や確認などに留まっている。

敦賀市議会（議会運営委員会）への反映

- (1) 豊橋市議会は非常に安価に委員会中継を実現している。ただ、外部委託していないことなど、職員の負担増にもつながっている。しかしながら経費の関係で敦賀市議会も豊橋市議会と同様に、職員の負担増にはなるが、まずは豊橋市議会のように安価な手段で予算決算常任委員会のネット中継から始めることから検討すべき。
- (2) 委員会のオンラインなど当面の検討課題とすべき。
- (3) 政務活動費については透明性や責任の所在もあるが、会派支給の実績もあり、将来の検討課題とすべき。
- (4) 会議資料のペーパーレス化はタブレット導入時に基本、全議員のペーパーレスとして、当面の在り方を検討すべき。
- (5) 児童の傍聴は認めてもよく当面の検討課題とすべき。